

令和7年度事業の実施状況について

1. 利用状況

1.1. 利用者数

第一会議室

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	202	188	241	281	195	205	1,312
R7 年度	229	199	188	229	231	244	1,320
比較	27	11	-53	-52	36	39	8

第二会議室

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	91	70	111	127	151	151	701
R7 年度	132	79	113	77	156	156	713
比較	41	9	2	-50	5	5	12

フリースペース

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	276	451	457	395	352	408	2,339
R7 年度	358	421	352	410	513	303	2,357
比較	82	-30	-105	15	161	-105	18

全体合計

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	569	709	809	803	698	764	4,352
R7 年度	719	699	653	716	900	703	4,390
比較	150	-10	-156	-87	202	-61	38

1.2. 利用者数に関する考察

- 前年度と比較してやや減少している月がありますが、平均するとほぼ横ばいの数値となっております。

- 会議室における 6 月、7 月利用者数の減少理由は、高頻度で利用されている企業からの利用がないため。また、フリースペースにて開催されていた一部の事業が定員超過のため、開催場所を中央公民館に移動したためです。
- 館内のアンケートにて、チラシ、ポスターが雑多に貼られており見づらいとのお声があったため、各ジャンル（行政関連、地域イベント、広告用、暮らしの情報など）ごとに区分けをし、実施日の記載がないものは期限を定めて掲示するようにしました。利用者満足度向上のため、今後も改善を加えて参ります。

1.3. 利用件数

第一会議室

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	35	26	31	38	29	30	189
R7 年度	24	25	26	32	26	30	163
比較	-11	-1	-5	-6	-3	0	-26

第二会議室

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R6 年度	26	19	26	34	46	37	188
R7 年度	31	19	28	22	22	36	158
比較	5	0	2	-12	-24	-1	-30

1.4. 利用件数に関する考察

- 一部減少している月はありますが、利用率は前年度とほぼ同様の数値を保っています。下半期は平均値の下限を引き上げる方策、具体的には、今年度より定期開催している、びびなび活用講座やチラシ作成教室などで登録団体による活動の情報発信力を強化し、イベント、事業の参加者増加を促す導線を作り、利用率の安定化を図って参ります。
- 昨年度実施した「親子のアトリエ」にて、協力していただいた方が定期的に利用してくださり、市民活動団体を立ち上げ登録申請に至ったケースがありました。
- 地元企業との繋がりが弱いため、機会を見て協働事業を開催する等、地元企業とも注力して連携強化に努めて参ります。

2. 登録団体・相談件数

2.1. 登録団体 (R7.4.1～R7.9.30)

年度	新規団体	解散団体	合計
R6 年度	3	1	134
R7 年度	4	4	139

- 9月末現在で4団体が登録されました。活動のカテゴリは、まちづくりが3件（イベント事業が多い傾向）、福祉関連が1件で、市が実施する協働のまちづくり活動支援事業の申し込み団体からの申請が多かったのが特徴です。
- 学生ボランティア等から人材育成を経て市民活動団体設立に繋がるような流れも、構築できるようにしていきたいと考えております。

2.2. 相談件数 (R7.4.1～R7.9.30)

年度	相談件数
R6 年度	21 件
R7 年度	22 件

- 件数については図の通り、昨年度に比べてやや増加傾向でございます。
- 本年度よりフィールドワークの時間を増やし、本拠地を持つ団体への伴走支援に注力し、接する時間を増やした結果、来年度団体設立20周年を迎える木更津イルカ計画主催の記念プロジェクトへの協力、一般社団法人かんでんちでのチラシ作りの出張講座等、新たな事業展開につながる相談が増えました。
- ボランティア志願を含め、外国人移住者からの相談依頼も増えてきました。今後のためにもスタッフ研修を含め、グローバル化に対応していく必要性を感じております。

2.3. 団体、一般利用の比率 (件数)

R5 年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
減免	33	52	57	28	39	22	231	76.74%
有料	13	7	11	13	18	8	70	23.25%

R6 年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
減免	27	31	57	40	40	34	229	75.32%
有料	5	11	11	14	21	13	75	24.67%

R7年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
減免	45	39	25	34	27	59	229	76.08%
有料	10	6	14	18	9	15	72	23.92%

- ・ 団体（減免）と一般（有料）利用の比率はおおよそ 7 対 3 となっております。

3. R7年度上半期事業報告

3.1. 市民協働事業（目に留まるチラシ作成教室）

- ・ 参加人数：4月 11 日（金）4名
- ・ 内容：チラシ作成に必要な画像加工や修正をペイントソフト（JTrim）で使用して学ぶ教室を開催しました。参加者全員がスキルを向上させ、特に高齢者のデジタル機器への苦手意識克服、ICT の活用・促進に寄与できたと考えております。
- ・ 今後の課題：ICT の活用・促進をさらに広げるためには、より実践的なテーマを設定した講座を継続的に実施する必要があります。
- ・ 開催時の画像：



3.2. SDGs 推進事業（木更津海岸清掃活動）

- ・ 参加人数：5月 18 日（日）20名
- ・ 内容：木更津港の環境改善のため、登録団体「木更津イルカ計画」と協働して鳥居崎公園の東部に位置する木更津東海岸のゴミ拾いを行いました。地元企業の方々が家族と一緒に参加してくださいり、学生も多数参加してくれました。本活動を通じて環境美化の大切さを啓蒙できました。
- ・ 今後の課題：「環境教育」としての学びを深める仕掛け（講話やワークショップ）を盛り込むことで、より事業に発展性をもたせられると考えております。
- ・ 開催時の画像：



3.3. ふれあい清掃活動

- ・ 参加人数：5月 25日（日）7名
- ・ 内容：駅前の環境改善のため、木更津駅西口周辺のゴミ拾いをしながら違う人に挨拶を交わしました。教育のためと小学生の親子連れの参加者もあり、環境改善の大切さを意識付けるきっかけの場となりました。
- ・ 今後の課題：西口一帯を対象にしているため、事業規模の拡大が課題です。環境改善だけでなく交流側面を強調し、地域住民の参加を広げる必要性があります。今後は市内の学校・PTAとの連携強化が必要となります。
- ・ 開催時の画像：



3.4. 子育て支援談話会

- ・ 参加人数：7月 10日（木）10名
- ・ テーマ：「“いいママ”より、“幸せなママ”でいよう」
- ・ 内容：講師として結星 容子氏をお招きし、「感情の整え方」や「自己肯定感の高め方」など、自分自身を大切にすることの重要性についてご講義いただきました。参加者同士によるワークも取り入れ、終始和やかな雰囲気で進行しました。参加者からのアンケートでは、「今後も開催頻度を増やしてほしい」との意見が多く寄せられ、子育て世代が抱える悩みや不安の軽減に寄与する、有意義な事業となりました。
- ・ 今後の課題：アンケートにて「開催頻度を増やしてほしい」との要望が多く、ニーズに対する運営体制強化が必要です。また、講師依存型であり、内容の継続性・多様性を確保する仕組みが求められます。
- ・ 開催時の画像：



3.5. プログラミング体験会 [きみのプログラムでドローンを飛ばそう！]

- ・ 参加人数：8月16日（土）3名
- ・ 内容：市内小学生を対象に、ゲーム感覚でプログラミングを学びながら論理的思考を養うことを目的とし実施しました。当初7月開催予定でしたが、講師の感染症罹患により延期となりました。延期の影響で参加者数は減少しましたが、参加した児童はプログラミングに触れ、ドローン操縦に熱中する様子が見られました。本事業を通じて、教育分野における市民活動の一環として、子どもたちの想像力や探究心の育成に寄与できたと考えております。
- ・ 今後の課題：内容は楽しい反面、継続的な学びに繋げる仕組み（次のステップ講座）が不足していると考えております。
- ・ 開催時の画像：



3.6. 全登録団体交流会 [つむぐ・つながる・生まれる]

- ・ 参加人数：8月31日（日）13名
- ・ 内容：登録団体同士のつながりを構築し、各団体の活動情報を共有、意見交換を通じて連携強化を図ることを目的として実施しました。木更津社会福祉協議会との共催により、互いの登録団体間で交流を図り、「オファー・ヘルプボード」に貼られた付箋を基に意見交換を行いました。アドバイザーとして社会教育士の影山貴大氏を招き、持続的な活動に向けた具体的なヒントや助言をいただきました。当日は、普段接点の少ない多様な分野の団体同士が積極的にディスカッションを行い、市民活動の新たな可能性を感じさせる場となりました。これにより、市民主体のまちづくりの一端を担う有意義な機会を提供できたと考えております。
- ・ 今後の課題：参加者が13名と限定的であり、全団体を巻き込むには参加率向上が必要です。また、分野横断の交流を成果に結びつけるため、具体的な協働プロジェクトに発展させる工夫が必要です。
- ・ 開催時の画像：



3.7. 市民協働事業 [よくわかるランディングページの作成方法]

参加人数：9月10日（水）3名

- 内容：登録団体含む市民の方々が持つ知識やスキルを生かし、地域や社会の課題に取り組む市民を増やし、育成することを目的とした事業。登録団体「桜井ユビキタスデフテック」の協力を得て、ノーコードツール「ペライチ」を使用して自身や所属団体のウェブサイトを作成する工程をレクチャーしました。
4月開催の講座に参加してくださった方が引き続き参加してくださり「他の人達と一緒にやると楽しく学べるので、開催頻度を増やして欲しい」との声をいただきました。試作版ながら全員がサイトを完成させることができました。参加者同士でも教え合いながら制作することで高齢者層のパソコンへの苦手意識を軽減でき、市民活動における宣伝の発信力向上に寄与できたと考えます。
- 今後の課題：新しいパソコンへの買い替え等、ハードウェアに関する質問もありましたので、今後はそうした相談にも対応し、具体的なパソコンのスペックを記述したメモを渡すなど継続的な参加を促す体制の整備が求められると考えます。
- 開催時の画像：



3.8. 防災・減災講座

参加人数：9月→1月に開催延期

- 内容：9月23日に開催予定でしたが、受付締め切り日までに1件の申し込みがありました。講師から参加申込者数が講座実施に必要な最低人数（4人）に達していないことを理由に延期を要請がありました。
参加申し込みが少なかった理由として、今回実施した広報活動（チラシの配布、各SNSでの周知）が十分な効果を発揮できなかつたものと考えられます。それらを加味したうえで、施設利用者や申込者から災害対策に関する意見を聴取し、講師と協議を重ねました。
結論としまして、広報活動に関しましては、チラシの配布箇所の拡大やSNS投稿頻度を増やす他、協働のまちづくり活動支援事業で採択されている木更津交流会に参加するなど、発信力のある人物と繋がり、情報発信の強化を図

つていくなど対策を講じたうえで十分な周知期間をとるために開催を 1 月に変更、また、より多くの参加者に分かりやすく防災、減災に対する知識を身に付けていただき、防災意識の向上を図るため、講座内容を「風水害対策」から「災害時を想定した防災パッククッキング」へ変更いたします。

4. R7 年度上半期の取り組み

4.1. 人的、物的リソースの効率的運用

- ・ スタッフによる業務分担を明確化し、各プログラムの事前準備、実施、フォローアップの役割を明確にすることで、効率的な運営を実現しました。
- ・ 定期的なスタッフミーティングでの振り返りと勉強会を実施。登録団体情報の精査、データベース化、それに伴う団体間の人材シェアリングを開始しました。また、自主事業の参加申し込み数の増加、施設利用の利便性、設備面での参加者の満足度向上のために他施設での開催頻度を増やしました。

4.2. 若年層、移住者を主な対象にした地域密着型の体験イベント

- ・ 地域愛着を醸成するべく、若年層・移住者を主体とした地域住民向けに木更津の伝統・歴史文化を背景としたイベントを実施しました。10 月に登録団体との協働事業を実施。太田山公園を拠点としたガイドツアーで歴史文化に触れ、地元愛着の向上を図りました。
- ・ 10 月下旬に地元企業と連携して小学生を持つ親子を対象にした自然体験会を実施予定。収穫体験による食育（食物への感謝の気持ち）や環境保全に繋がる地産地消の概念を学んでもらいます。

4.3. 防災・減災対策プログラムによる地域一帯の連携強化

- ・ 木更津市社会福祉協議会主催で 11 月開催予定の防災講座に関連機関として協力予定です。

5. 下半期への取り組み

5.1. 地元企業との協働強化

- ・ 地域企業との繋がりの弱さを課題として認識し、CSR 活動と市民活動をつなぐ施策を展開いたします。
- ・ 清掃活動や子育て支援事業に明治安田生命様より企業ボランティアに参加してもらい、社員の地域参加を促進。企業にとっても人材育成・地域貢献の機会となるような仕組みを構築し、持続的なパートナーシップを育みます。

5.2. 外国人移住者への対応力強化

- 相談件数の増加を受け、スタッフ研修による多文化対応を開始します。館内案内の多言語化、環境美化や防災ワークショップなど、言語の依存度が少ない活動を中心に構成した、外国人向け市民活動体験会の試行など、安心して参加できる仕組みを整備いたします。
- 留学生会、技能実習生のサポートを行っている登録団体、国際交流協会などを通じて多言語チラシ（英語・やさしい日本語・母語（中国語・ベトナム語など））の配布や各 SNS を通じて外国人コミュニティへの周知を行い、地域で孤立しがちな外国人住民の参加を即し、グローバルな協働の基盤を築きいて参ります。

5.3. 防災・減災における地域連携の深化

- 下半期は避難所運営や情報伝達シミュレーションを実施し、地域全体の防災力の底上げを目指します。社会福祉協議会との共同事業にも積極的に参画し、持続的な防災ネットワークを構築いたします。

5.4. 若年層・移住者を対象とした体験型プログラムの継続

- 歴史文化や自然体験を軸に、地域愛着を醸成するプログラムを継続的に実施します。太田山公園での歴史散策や地元農産物を活用した食育体験を組み合わせ、若年層・移住者に地域の魅力を体感してもらいます。これにより市民活動の担い手を育成し、地域コミュニティの多様性を広げて参ります。